

第2回 新向日市環境基本計画策定委員会 議事録

日時：平成23年9月29日 10:00～12:00

場所：向日市市民会館 3F 第5会議室

<出席者>

●委員

三輪委員、岡本委員、上羽委員、川島委員、玉井委員、松井委員、佐野委員、戸田委員、金内委員、中村委員、片岡委員、池田委員、酒井委員

(名簿順)

(欠席：加賀委員、木原委員)

●事務局

環境課：中村次長、長谷川課長補佐、小島

コンサルタント：株式会社サンワコン 桶谷、駒野、宅間

<次第>

・開 会

1. 委員長あいさつ

2. 審議事項

1) 計画の基本的事項について【資料1】

2) 現況調査関連資料について

・関連計画概要【資料2】

・基礎調査結果【資料3】

・現行計画進捗状況報告【資料5】

・温室効果ガス排出量の算定結果【資料4】

・アンケート調査結果（経過報告）【資料6】

3. その他について

・閉 会

〈 ・開会 ～ 1. 委員長あいさつ 〉

事務局（環境課）進行のもと、執り行われた。

〈 2. 審議事項 〉

【 1）～2）の関連計画概要、基礎調査結果、現行計画進捗状況報告について 】

（事務局より資料の説明）

主な意見

- 今回、環境という広いテーマについて、短い時間でまとめられるのか。書いてあるのは文章や計画だけだと思う。また、向日市は4Rを推進しているが第5次総合計画の重点施策に「環境意識の啓発と取組の実践」と書いてある。4Rについて、どのような実践を行い、どんな組織に下ろしていくのか検討が行わなければ、絵に書いた餅になってしまい何年経っても進まない。
- H18年にエコ地域推進委員会議でマイバッグ運動をしたが、市民団体や商工会から拒否された。アンケートの結果でレジ袋は必要だからと書いてあるが、レジ袋は石油から作り地球資源を無駄遣いしている。そういうことを市民にアピールするには、どういった方法があるのか、どのような計画を立てるのか、また、どのような実践をするのかが大事であると思う。
- 我々は地球温暖化防止のためにグリーンカーテン運動をしている。年に2～3回のグリーンカーテンの普及活動も行っている。そういう一般的な循環型社会形成とは何か、地球温暖化防止とは何か、また、地球環境とは何であるのかを、都市計画よりも前に考えるべきではないか。都市計画は環境を考える人たちだけで話し合っできるものではないと思う。
- 緑の資源の全般的利用についてはいろんな形で協議して市民サイドに分かりやすく説明ができますが、都市環境の創造、人と自然との共生、自然とのふれあいなどの項目は、環境基本計画の中で検討するのは難しいのではないかと。
- 他の会議の中で放射能問題を検討してきましたが、それらも含み地球温暖化防止と循環型社会の形成を初めに論議して欲しいと思う。後は予測という形にしないと前に進まないと思う。
- 「緑の質」をどう定義して色々なパーセンテージを算出しているのか理解ができない。里山林を緑ととるのか、植樹された街路樹を緑ととるのか、また、自然林の緑は何パーセントであるかなど、緑について様々な捉え方があると思う。向日市の特質として、この街の緑は竹林を含めて里山林である思っているが、それを自然環境であるとするのか定義がよく分からない。また、生物調査についての資料や動植物・昆虫類について調査の有無も確認したいと思う。放射能についても調査の有無を教えて欲しい。

- 環境基本計画が策定された H19 年度当時の緑被率は 17%であり、10 年後に 32%と目標値が設定された。策定の前年度の緑被率は 23%であったが、田んぼが終わり、街路樹が枯れた冬に撮影した航空写真で判断したため 17%に下がった。そのため、17%という数字はあてにならないと思う。
- 量販店やお店で買い物客の数とエコバッグを持参した人の数を調査すれば把握できると思う。アンケートも必要だと思うが、店舗で直接データを取れば毎年の変化が分かると思う。例えば西京区の西友デパートでは、マイバッグを持参した場合 2 円安くなるので、データとして調査結果がすぐに分かり効果が確認できると思う。
- 都市計画とリンクしないと 4R 運動もうまくいかないと思う。公園の数を 5 倍に増やすとありますが、京都府の全体からみても公園の数は少ないし、丘陵や竹林はあるが街中に緑が少ないと思う。都市として京都府と大阪府のベッドタウンと位置づけられている訳ですから、緑化やエコ活動を具体的に進めていかないと目標に到達しないと思う。公共施設自体が緑化を始めないと緑化比率は上がらないと思う。阪急沿線の桜並木の推進や、JR の敷地などに緑を増やすなど、都市計画と 4R を一緒に考えるべきだと思う。
- 結果としてどう環境を守り推進していくのが一番良いのか、大きな方向で進めないとうまくいかないと思う。市として将来どうあるべきか、という訳だから個々に問題はあるにしても全体のポイントから対応していかないと問題があると思う。利害が相反する、特に日常生活に小さな問題だけを取り上げ、そこだけで話を進めることが無いよう、今より一つレベルを上げて方向を決めていかなければならないということを感じている。
- H23 年に勝山中学校がグリーンカーテンに挑戦し、生徒たちが畑を耕し、苗植えなども体験したので環境教育学習の一環になったのではないかと感じている。先程公共施設の緑化というお話があったが、小、中学校でグリーンカーテンの取組みを始めているということをごちろの方に記載して頂くと良いと思う。

【 2 ）の温室効果ガス排出量算定の結果、アンケート調査結果（経過報告）について 】
（事務局より資料の説明）

主な意見

- 最後のページに記載されています排出量の推移の比較で、向日市の 2008 年度の民生家庭部門が 36%となっている。京都府でも 23%だが、一人当たりではどのような数値になるのか。近年の市民一人の一日当たりのゴミ排出量は、京都市で 1.1 キログラム、向日市では 0.7 キログラムだと聞いている。表のパーセンテージだけで比較すると、向日市は京都府や全国より高いようだが一人当たりの数値を算出して頂きたいと思う。
- 樹木の部分と竹林の部分を区別して表示して頂きたいと思う。特に、資料 3 の 6 ページにある現存植生図の中で、モチツツジやアカマツの群集と表示された植生区分があるが、8 割は竹林に占拠されているのが現状である。最近、ナラ枯れも問題になっているので航空写真を参考に被害状況を調査して頂きたいと思う。また、他の植物により植生区分が変わり、害虫などにより減少した部分もデータを出して頂きたいと思う。前回の会議で、農の問題について話をしたが、都市計画の中で水田をどのように扱うのか全く触れられていない。向日市全体の水田面積が H22 年 103ha から本年 8ha 減少している。排水路も複雑化しており 50mm 以下の雨でも曲がり角部では水が溢れたりする。田んぼとか竹林を減らす場合は、排水路のことを考慮した都市計画を推進して頂きたいと思う。開発業者が申請したら何の条件も付けないで都市開発を進めたり、住宅が造られたりすることに危機感を持っている。
- 環境基本計画の自然環境について新しく提案したいのは、自然や農業など水の重要さがあるにも関わらず、水についての提案がなく疎かにされているのではないかということである。洛西用水は全国の疎水 100 選の中に選ばれている。そういったものを含めた中で自然環境を提案していき、メダカやカエルなどの水生生物調査も必要だと思う。
- 緑化について、公園を造成することは直ちに効果があると思うのだが、企業、マンション、各家庭で緑化推進を打ち出し、例えば、建築確認の申請時などに樹木や緑の設置状態などを指導していけば、公園を造成しなくとも緑化が推進できると思う。家に植木があれば関心も生まれ、市民一人ひとりの意識も高まり、また公園造成には大きな費用がかかるという点からも必要であると思う。自然環境と住宅、それぞれの部署は違いますが行政の中で、意識を統一していけば実現できる問題だと思う。
- H22 年の京都府の調査では向日市の川は AA ランクとされており、魚が棲める綺麗な状態になったと思う。ナラ枯れですが、向日神社でも木にビニールが巻いてある。私は付近をよく散歩しますが、情けなく寂しい思いで、何とかならないのかと思う。また、競輪場の跡地を何に利用するかということだが、緑地の面積も増えますので個人的には向日市の人が集える公園などになると嬉しいと思う。

- 個人的に気付いた点が二つあり、まず一つは環境目標の設定にあたり自分の力で達成できるという目標を設定しないと、目標そのものが不明確になり、達成できなかった場合の逃げ口上になる。もう一つは、環境というものをどの程度まで捉えるかについて、上位計画と連携していく上で、環境だけの施策を抽出して目標を立てて系統的に網羅していくというのが一般的な環境基本計画だと思っているが、一方で向日市の土木工事などを含めた全事業を環境のフィルターにかけてしまうのも一つのやり方ではないかと思う。具体的には公共工事など、いかに環境に考慮して工事を施工したかについて土木担当者に説明を求める体制を作ることができれば一歩前進したイメージが出来上がると思う。
- 現行の計画の中にも未達成の部分がたくさんあると思うので、どんな点でどのような連携ができるのか、十分考えながら議論していけたら良いと考えている。
- 私の地域は住宅を建てる場合、緑地を 10%以上設けるよう規定がある。強制ではありませんが市の指導だと思う。最近の例を見ますと、10%を満たしていなかったり確保できていなかったりするものが多いようである。強制力は伴わないまでもきちっとした指導力に対応する姿勢が必要だと思っている。緑地 10%を確保するという事は、そこに雨水が浸み込み排水路が溢れてしまうといった状況を防げることだと思う。10%と取り決めをしているルールをペーパー上だけで判断して、指導も検査もしないことが根本的な問題だと思う。決めたことを市が正しく守ってくれるかどうか関心を持って見てもらうことが重要だと思う。そうでなければ、この場で多くの方が議論しても全く無意味なものになると思う。
- マイバッグ利用者が増えきたと思う。もう一つ嬉しいと思うのは、中学生を含めた子どもたちを取り込んだ、学校や地域の活動が盛んになってきたことである。こういった中で、進めるためのシステムを導入することで家庭における 4R も進んでいくと思う。
- 小学校では 4 年生から、様々なテーマで環境問題を勉強している。地域の施設などを見学したりして学習している。またエコノートというものがあり、夏休みの期間、どのようなエコに取り組んだのか記録してもらい後でみんなと話し合いをしている。夏の朝に学校の観察池に青鷺が飛来したこともあったが、一方で中学校には木を始めとした緑が少ないと感じている。教育の面に関しましては、小学校では 4 年生から、中学校では総合的な学習の時間ということで自分のテーマを決めて、環境を基に研究を進めている子どもたちがいるので、将来につながるのではないかと考えている。

< 3. その他について >

次回の委員会は 11/8、9、10 のいずれかを予定しております。また調整した上でご連絡いたしますので、よろしく願いいたします。

< ・閉 会 >